市民の皆さんと共に

矢板市長　遠藤　忠

9月3日、突如として知らされた「放射性物質汚染指定廃棄物の最終処分場」。

環境省のやり方に強い憤りをもち、その対応に苦慮しながら、はや3カ月が経過しようとしている。

なぜ、矢板市塩田字大石久保が最適地なのか、何としても理解することができない。

現地を見れば、関谷断層、水源地、飲料水への影響、仮設焼却炉からの放射性物質の飛散などの危険性について誰もが理解することであり、また深刻な風評被害に苦しめられることは明らかである。

環境省の言い分は、「最終処分施設建設は、特別措置法で国が責任を持って行う。その処理は、特別措置法に基づいてつくられた基本方針で、指定廃棄物が排出された都道府県で行うとしている。県内どこかにつくらなければならないことは、分かるでしょう。」

国は、「選定方針に基づいて選定の基準を定め、候補地の評価を行い、現地踏査をして、最終的な候補地を選定した。」、「国の進め方は間違っていないし、安全な施設を造るのだから心配はない。」、「候補地を指定したことが、地元の理解を得るスタートラインです。地元の理解を得られるまで、何度でも地元に来て丁寧な説明をします…。」と言う。

極秘のうちに調査をして、突如知らしめる手法、基礎自治体を全く無視した環境省の傲慢な姿勢を、承服することはできない。

しかも、福島原発事故からしても、「施設は、安全である」という説明は、到底信用することはできない。

私たちは、次の世代に対して共に責任を負っています。私たちが直面する課題は、私たちの世代で解決しなければなりません。

指定廃棄物最終処分場は、ふるさと矢板の未来に関わる重大な問題です。

今こそ、未来を慮る力を発揮し、自らの意思を表明して、白紙撤回を求めていかなければなりません。

「国がやることなので、いくら撤回を求めても、やがて造られてしまうのだろう。」、「国の指定を受けて、それをうまく生かしたらどうか。」などと言う方もいると聞いています。

私どもは、今を生きる矢板市民として、後世に禍根を残してはなりません。

これから先、何十年も将来にわたって、はかり知れない不安と風評被害に苦しむことのないよう、これまで培ってきた「市民力」を発揮して、白紙撤回を求めていかなければなりません。

国の見返り代償などあり得ないし、私どもは正道を歩み、何としても「ふるさと矢板」を守らなければなりません。

矢板市にとって最大の危機に直面している今こそ、矢板市民としてのアイデンティティーを貫かなければなりません。

指定廃棄物最終処分場候補地白紙撤回に向けて

矢板市議会議長　守田　浩樹

矢板市を大きく揺るがす今般の指定廃棄物最終処分場候補地問題。発端となった9月3日の環境副大臣の突然の矢板市訪問から、既に3カ月が経過しようとしています。

本市議会は、候補地選定の白紙撤回を実現するため、各方面に対して鋭意活動を展開してまいりました。塩谷地区の議会でも、塩谷町、さくら市および高根沢町で選定の白紙撤回を求める意見書案を可決していただき、候補地選定の白紙撤回に向けて足並みを揃えているところです。

本市の塩田地区は、次の主な理由により指定廃棄物最終処分場候補地には全く適さない場所です。まず、この候補地は生活用水や農業用水の貴重な水源地です。指定廃棄物最終処分場を建設することは、危険極まりない。この土地を、今後数十年以上にわたり放射性物質に汚染される危険にさらし続けることは許されません。

次の理由は、候補地の至近に関谷断層が存在していることです。高度な安全性の確保が必須である指定廃棄物最終処分場の候補地を、活断層のすぐ近くに選定すべきでないことは誰の目にも明らかです。有事の際の影響は、計り知れません。また、この他にも、仮設焼却炉からの放射性物質の飛散の危険性など、深刻な問題が存在していることは、皆様ご承知のとおりであります。

そもそも、本市は放射線量の汚染状況重点調査地域に指定されています。すなわち、風評被害が重くのしかかる、福島第一原発事故の被災地なのです。市は、放射性物質による被害を軽減し、市民の不安を早急に払拭するために、さまざまな場所で懸命に除染作業などを行っているところです。

そんなさ中の、安心安全を切実に願う市民の思いを全く無視した、国の唐突で一方的な候補地選定。これは、断じて受け入れることはできません。国も県も、地元の私達が抱いている放射能に対する不安がどれほど深刻なものであるのかということに、思いを致していただきたい。風評被害に苛まれる私達の心情を、お察しいただきたい。

地元の私達の合意が一切得られていない今回の候補地選定は、直ちに白紙撤回されなければなりません。白紙に戻した上で、多角的、総合的にこの問題を再検討していくべきです。

本市議会の今後の予定としては、平成25年1月17日に高萩市を訪問し、高萩市の現状を視察するとともに、高萩市議会議員の皆様と意見交換を行い、撤回に向けた動きを一段と進める予定です。

現在、衆議院が解散され、国政は慌ただしい動きを見せておりますが、矢板市議会は、ぶれず、揺るがず、市民同盟会や市民の皆様、市行政、そして協同歩調を取る高萩市の皆様とともに、今後とも候補地選定の白紙撤回に向けて、力強くまい進いたします。

《表紙の写真》最終処分場建設候補地の塩田字大石久保から、約500メートル離れたところにある「風穴湧水（かざあなゆうすい）」の様子です。きれいな水が滾々（こんこん）と湧き出しており、自然の恵みが残されています。